

津波被災が起きた地域のこれからの考える

仙台低地部の現地見学と議論

1. 講義の趣旨

2011年3月11日、東日本大震災が起きました。仙台市でも津波によって死者・行方不明者、土地・家屋の流出、暮らしの喪失が生じました。

多くの津波被災地域は災害危険区域に指定され、これまでの暮らしができなくなりました。

ではその後はどうなっているのでしょうか。まずは現場に身をおいてそれを理解する必要があります。

そのうえで、もう少し異なる災後のあり方がありえたのではないかと考えることが重要です。

本研修では、研究者や実務家が登壇するまちづくりセミナーや現場でのビーチクリーンに参加し、さらに必要な情報を収集し、履修者全員が自分の考えたことを発表します。こうした議論を通して、自分の考え方を持つこと、そしてそれを深めることを目的としています。

2. スケジュール(集中)と履修人数

① 10月20日(月) 16:45-18:15

青葉山キャンパス人間・環境系 F01教育研究棟 5階 509
川内キャンパスからの移動時間調整

- ・研修の概要説明
- ・津波被災と対応について基礎講義

② 10月25日(土) 13:00-18:00

・研究者や実務家が登壇する東日本大震災のまちづくりセミナーに参加
青葉山キャンパス人間・環境系 F01教育研究棟 1階 101
新建築家集団主催+都市デザイン研究室共催

③ 11月9日(日) 10:00-18:00

- ・深沼ビーチクリーン参加
- ・当事者に集団インタビュー調査

④ 11月17日(月) 16:45-18:15

青葉山キャンパス人間・環境系 F01教育研究棟 5階 509
川内キャンパスからの移動時間調整

- ・現場に行ってみて話をして考えたことを、各自が考えをまとめてレポート作成、パワポなどを使って発表、全員で議論
- ・一人の持ち時間は、履修人数(上限**10名**)が決まってから決定

おまけの自己紹介

地域の在り様をデザインする研究をしています。デザインとは、今とは異なる姿を構想して実現する技術です。

地域を少しでも理解するために、現場に行き、そこに身を置き、じっと見たり聞いたり話したりします。机に戻って関連する論文や書籍を読んだり、情報を収集したりします。そして現場に提案したり、住民の方々と一緒に実践したりもします。そしてまた軌道修正です。重要なことは、その過程で、地域住民の方を含む様々な方と意思を交換することです。

そのような地域デザインの方法を、体験してもらえたらと願っています。



窪田亜矢 教授

ayakubota@tohoku.ac.jp

建築・社会環境工学科
都市デザイン分野

